

羽はたけ! こどもたち

大堀 寛人

⑥

「命」の息吹を感じる春。こどもたちは野外へ遊びにいくとき、キヨロキヨロと脇見歩きばかりしてしまふ。食べ物を探して上を見たり、下を見たり…。春は「自然」を味わう絶好の季節です。

「春」を味わって

自然の恵みはごちそう

武田山(広島市安佐南区)にある知



「皮がっぱーい」。武田山で採ったばかりのタケノコの皮をむく4、5歳児

人の竹林にタケノコ掘りに出掛けます。タケノコを夢中で探して掘り、そのままたき火の中に放り込む豪快な「山ぞく焼き」は、「ちゅーりっぷ」のいち押しメニュー。火から取り出して皮をむき、塩をかけて食べるだけですが、タケノコ嫌いのこどもも「おかわり!」。竹林では竹細工を作ったり、ササの葉で陣地作りに汗を流したり…。春にしか体験できない味覚と遊びをたっぷりと楽しみます。

早春の土手にひょっこり顔をのぞかせるツクシの群生。「あつ、ツクシ見つけた!」。そう叫んだ瞬間、こどもたちは、もう土手を滑り降りてツクシ採りに熱中しています。収穫後は真剣な表情ではかま取り。翌日は野外に天ぷら鍋を持ち出し、ツクシとタンポポをあえたかき揚げなどに舌鼓を打ちます。

が熟れるのを楽しみに待ちます。真っ赤に熟すと、こどもの手の届く野イチゴは、アツという間になくなります。こどもたちは、野草や木の実を食べながら多くのことを学びます。まず植物には食べる「時季」があること。すると、食べごろになるまで「待つ」楽しみを自然に覚えていきます。また、どんな植物も無尽蔵ではないこと。だから根こそぎ採ってはいけないこと。

道端のスイバやイタドリは、こどもたちがよく口にする春の野草です。皮をむき、チューチュー吸うと、酸っぱさが口に広がります。みんなが集め、先生が包

そして、現代の食卓では味わう機会が減っている「えぐい」「苦い」「酸っぱい」に出合う経験が、こどもたちの本物の味覚を育てるのです。春の味体験により、こどもたちは自然の恵みがせいたくなごちそうである、と感じ取ることでしょう。(ぶれいすくーる・ちゅーりっぷ 広島市西区 園長)

丁で細かく切り、最後に花がつおと、めんつゆを振り掛けると、「あえ物」として昼食の一品に早変わり。水分峠(広島県府中町)では「もうすぐ食べられるね」と甘酸っぱい野イチゴ

物